新潟県立長岡工業高等学校同窓会東京支部会報

東京支部だより

第 ２０ 号（記念号）

発行人：支部長　金井 博光

編　集：会報編集委員会

ご挨拶

支部長　金井 博光(S44M)

三度にわたるワクチン接種を行うことで継続した感染抑制策を実行中です。この間、誠に残念なことに、2 年連続して「総会・懇親会」の開催を “断念” しました。

支部の高齢化が避けられない中で、総会を開催できないことは「会員数の減少に直結することになる」を懸念し、「会費納入の変化がどの様に推移してゆくか」を見守っておりました。会員数が減少すると会費納入額の減収となり、支部活動の抑制が始まり、負の連鎖となります。資金不足は総会・懇親会の準備や会員名簿の維持・管理、及び支部だよりの発行等に大きく影響して参ります。その様な中でも、皆様から寄付がいただけることは有り難く、支部活動の大きな原動力となっております。会員数の減少は避けることのできない現実です。今後は支部活動の内容を今一度見直し、経費支出の抑制を図りながら支部運営を行うことになります。

誠に残念なことに、昨年 1 年間で 35 名の方が退会され、年会費納入額が 111,000 円減となりました。この数字は支部運営にとって大き過ぎる値で、重大なインパクトとなっております。数年前に会費を改訂させていただきましたので、この年会費をベースに今後の減少傾向を踏まえながら、更なる工夫を重ねて参ります。

さて、令和 4 年で創立 120 周年を迎えます母校ですが、コロナ禍において在校生は教室のモニタを介しての式典参加となります。式典は 10 月 22 日（土）に体育館で行われ、同窓会関係者、来賓、学校関係者がそこに参列されます。記念イベント（懇親会）は同窓会本部が中心となり、計画されておられます。東京支部といたしましても、本部のイベントには全面的に協力させていただくつもりです。開催されます記念イベントへは皆様のご協力をお願いすることになります。母校からは地理的に離れておりますので、きめ細やかな支援はできません。よって、寄付とイベントへの参加をお願いすることになると考えます。特に記念イベントへの参加につきましては是非ともお願いいたします。

令和 4 年 7 月 2 日（土）に開催を予定しておりました東京支部の「総会・懇親会」は、新型コロナウイルスの再拡大を懸念し、収束を待つことで開催を“断念” いたしました。誠に残念ですが、3 年連続の中止となりました。想像を超える事態となっておりますが、次回までお待ちいただくことになりました。来年度には開催できることを心待ちにしております。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*

また、同窓会本部に金子正元様（S33E）、母校に田原吉郎様（S20C）の 2 名の方がそれぞれの思いで多額な寄付をされました。いずれの先輩方の活躍、思いに対して同窓生として敬意を表したいと思います。

最後に今年は、母校が創立 120 周年を迎え、10 月 22 日に記念事業が開催されると聞いておりますので、会員の皆様も是非参加していただき後輩を励ましていただければと思います。

『世代が繋がる　心は結ばれる　同窓の絆は永遠に』をモットーに、会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈りして、ご挨拶とさせていただきます。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*

与することを目的としております。おかげさまで、本校電子機械コース 3 年生が、株式会社デンソーウェーブ製の人協働ロボット COBOTTA を用いた実習を行い、2 年生数名が株式会社タワシテック様及びケミコン長岡株式会社様にて協働教育を実施しました。

今後も長岡市と人材育成の目的を共有しながら、地域産業会の皆様方からのご支援をいただき、学校長指導の下、様々な取組を行っていきたいと考えております。

結びに、同窓の皆様方のご支援、ご声援は、学校の大きな力でございます。今年度より本校も少子化に伴い 1 学級減の 5 学級となり、本校が抱える課題はありますが、これからも同窓の皆様方とともに、本校の「新しい歴史」を刻みつつ、「変わらない伝統」を守っていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

母校 120 周年・・・ふり返って前を見る

長岡工業高等学校同窓会 会長　山下 進(S40C)

新型コロナウイルスが猛威をふるって既に 2 年が経過しました。今も新たな変異株が生まれ、第 6 波が日本全国を襲っていて鎮まる様子はありません。

社会全体がその対応と対策に終始し、私達の生活と活動は大きく制限されたままとなっています。母校 120 周年を目前とした本会も例外ではなく、その影響も大きく活動が沈滞しているのが現状です。

以前酒造りを指導する大先輩から、何かの判断で迷った時は『ふり返って前を見る』、との助言を受けたことを思い出しました。永い酒造りの指導の体験から得た貴重な助言でありました。(私はこの助言を得たことで半世紀もの間、酒造現場に勤務することができたと思っています)

『ふり返る』は今風に言えば PDCA サイクルの C（検討）A（対策）に当たり、『前を見る』は P(計画：新たな目標を定める)に当てはまるのではないでしょうか。

さて、本会を『ふり返る』ためには資料が必要ですが、それは意外と私の身近にありました。先輩方が遺してくれた「創立 80 周年記念・越の広野 80 年」と「創立百周年記念・越の広野百年」です。それは素晴らしい内容の立派な記念誌で、次世代に母校と本会の事柄を伝え続けていく為にも、本当に大切なものだと思います。

母校の名称が、新潟県立工業学校（明治 36）・新潟県立村松工業学校（明治 39～明治 44）・新潟県立工業学校（明治 39）・新潟県立長岡工業学校（大正 10）と変わり、現在の校名『新潟県立長岡工業高等学校』となったのは、学制改革のあった昭和 23 年からです。現在の校名になってから、もう 74 年の時が流れています。

また、所在地も新潟県中蒲原郡村松町（現五泉市村松町）・長岡市東千手町（現長岡市南町・南中学校敷地）へと変わり、そして現在の長岡市幸町（旧長岡市西千手町）に移ったのが昭和 15 年であり、こちらもすでに 82 年の時が流れてしまいました。また百年誌には本会の歴史が掲載されています。本会は明治 39 年の第 1 回卒業生 36 名からスタートし、現在卒業生総数は（令和 3 年 3 月）27,533 名となっています。

私も勉強不足で知らなかったのですが、本会会長は昭和 34 年までは母校校長がその任に当たっておられました。現在の形になったのは昭和 35 年からであります。本会の運営と活動、そして会員同士の絆を育成する基盤である長工会館が建てられたのが昭和 39 年でありました。その後、建物の老朽化に伴い平成 13 年に、現在の長工会館 (2 代目) に建てかえられました。すでに竣工以来 20 年が経過しています。また理事会においては、事務局から「平成以降卒業会員のほとんどの方が会費納入をされていない（納入実績 10%）」との報告も受けています。これらを合わせて考えますと、『前を見る』ことにはかなり厳しいものがあります。

本会は、この 120 周年はチャンスと捉えて、運営・活動をこれまでと同様に継続して行けるように、その礎を固めてまいります。母校の発展に寄与することは勿論のこと、母校と地域社会とを結び、少しでも地域の「ものつくり産業」の繁栄に貢献できることを目指してまいります。

東京支部会員の皆様のお知恵をも拝借し、推し進めてまいりますので、なお一層のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

特集記事

長岡工業高校同窓会東京支部と若波会

若波会 会長　藤下 幸伸 様

不忍池、池之端文化センターにおける運命的な出会いで始まった長岡工業高校同窓会東京支部と若波会。若波会のイベントにはいつも応援に駆けつけてくださいます。上野の噴水広場で開催された佐渡広域観光フェアや新潟県人会暑気払いなど枚挙にいとまがありません。なんと言っても最大のイベントは佐渡、相川で開催された宵乃舞でした。

この宵乃舞は地元ばかりでなく関東からの相川音頭の愛好者が何百名と集い、夕暮れ時、雪洞が灯るなか、チームごとに三味線、鼓、唄に合わせ京町通りを下っていく。沿道には何千人もの観光客が回りをかこむ。遠く沖には漁火が観えます。行きつく場所は、江戸時代の佐渡奉行所を復元した広場までを踊り通す。佐渡へは同窓会の皆様はじめ総勢 50 名のツアーで向かいました。若波会の提灯を持って先導してくださった方は同窓会の星野さん。♪どっと笑う～て立浪風の～が闇をとどろくなか、沿道から熱い視線がそそがれ、宵乃舞を終えたあとの達成感はみなさんも味わえたかと思います。そして益々若長会、長岡工業高校同窓会と若波会の絆は強くなったかと思われます。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

長岡工高同窓会東京支部の皆様と私

若波会　青沼 多嘉子 様

十数年前に思いがけない所で「長岡工高」の名前を偶然目にしたことから始まりました。上野のあるホテルに若波会がイベントで出演に行った時でした。1 階の会場に長岡の二文字に何かを感じたのです。幹事さんに声をかけ支部長さんの名前が「並木さん」と耳にした時「並木和子さんのお兄さん」とその瞬間、数十年前の思い出が蘇ってきたのです。

私が県立相川高校水泳部の一員として県大会で長岡に行った時のこと、県大会が終わって次に東北大会に出場するための長岡第二女子高校の寮に1週間の合宿をしました。その時女子高よりセレモニーの出演依頼があり、全校生徒の観覧するプールで各種目と名前を発表され模範水泳を披露しました。翌日、並木和子さんがお友達を連れて合宿先の寮に会いに来てくれました。それから和子さんと私との文通が始まりました。

卒業後、それぞれ上京し和子さんは女優を目指し東映の大泉寮で頑張っていました。ある時、和子さんから電話があり「今度、高倉健さんの妹役で出演するのよ、観てネ」の電話でした。和子さんが大女優の道をひたすら進んで行くにつれ私はなぜか一歩一歩身を引くようになり文通も途絶えてしまっていました。私の心の中では和子さんのことが気になっていたのでしょう。1階会場の長岡工高同窓会が気になり会場は宴たけなわでした。私は幹事さんに話しかけ若波会のメンバーと一緒に「佐渡おけさ」を披露させていただきました。大変喜んでいただいたことを想い出します。それ以来、東京支部同窓会にお誘いの声をかけていただいています。

私は何十年ぶりに並木和子さんと再会ができました。感謝します。和子さんは相変わらず美しさを保って綺麗でした。若波会で活動している私を見に来てくれました。

末尾になりましたが、並木和子さんは旅立たれました。知らされた時の私は驚きに声も出ず涙が頬を流れ落ちたことは忘れていません。一年に一度位しか会えなかった。思えば最後に会ったのは明治座に招待していただき一緒に食事をしたことでした。今は手を合わせてご冥福をお祈りするだけです。合掌

思えば和子さんがお兄さんのいる会に私を導いてくれたのでしょうネ。これからも長岡工高同窓会東京支部の皆様と若波会との交流が続くことを願っています。感謝！

前列左：青沼
（高3）

後列右：並木
長岡第二女子高時代

先頭踊り：青沼
1994 年撮影

左：青沼多嘉子
右：並木和子　2008 年撮影

新潟県立工業学校　初代校長　荒川新一郎

東京大学名誉教授　大橋 秀雄 様

長岡工業高等学校の同窓会の方には、荒川新一郎は県立工業学校の創立校長を務めた元祖のような方です。在任は 2 年と短かったので、その実像はほとんど知られていないでしょう。一方荒川は、私の母校、東京大学工学部機械工学科の第一回卒業生で、まさに大先輩です。加えて、もう一つの母校、県立村松高等学校の正門は、荒川の指示によって作られた建物や設備のなかで唯一現存する遺構で、国の登録有形文化材に指定されています。

私はかつて、二重の縁で繋がった荒川の生涯を辿るため、調査に没頭したことがありました。そしてあの校門から、荒川が発したメッセージを読み取りました。「日本の紡織産業の発展を助けたイギリスとフランス」に対する感謝と敬意が校門に込められています。

以下に荒川の生涯を簡潔にご紹介します。(歴史的人物として敬称略)

先ず、荒川新一郎の波瀾万丈の生涯を一覧表でご覧ください。

荒川新一郎の生涯

- 安政4年(1857年)　長州藩士の長男として山口で生まれる。
- 幼くして藩校明倫館と海軍塾で漢文と英数三角法を学ぶ。
- 明治4年(14才)　上京して海軍兵学寮で学ぶ。
- 明治6年(16才)　工学寮第一期生として機械科に入学。成績抜群。
- 明治12年(22才)　工部大学校卒業。日本初の工学士。成績優秀のため、紡織研究のため3年間の英国留学を命ぜられる。
- 明治16年(26才)　グラスゴーで実地経験を重ねて帰国。農商務省工務局技師として紡織業界の技術・経営指導に乗り出す。紡織工場の建設、運転などの助言・指導のため全国を行脚する。厳しい指導に定評があった。
- 明治23年(33才)　農商務省を退官。以降紡織会社の顧問などを務める。
- 明治33年(43才)　第5回パリ万国博に際し、英独仏に工業視察に赴く。
- 明治36年(46才)　新潟県立工業学校初代校長。
- 明治38年(48才)　農商務省花筵検査所(神戸)所長。
- 明治40年(50才)　病と神経衰弱を理由に退職。以降官職に就かず。
- 昭和5年(73才)　再婚の妻子とも別れ、自炊生活の末孤高の生涯を閉じる。

S Arakawa

昔は写真が超貴重品でした。荒川の写真を探しましたが、見付かったのは工部大学校の卒業写真だけでした。23 名の集合写真から抜き出した左の写真が、荒川を伝える唯一の映像です。サインは、彼の卒業エッセイに残されたものです。

荒川は渋沢栄一より 17 歳年下ですが、維新の荒波をまっとうに被って、変わりゆく時代の最先端を突っ走ったことに変わりありません。官と民の両方を経験したこと、留学経験があることも渋沢と共通です。明治 24 年、渋沢が社長を務めていた京都織物が経営危機に陥ったとき、紡織業界の第一人者として荒川に救援を求めました。荒川は専務として合理化に専念し、2 年で業績を飛躍的に改善しました。渋沢はお礼にと、慰労株の贈与と社長就任を依頼しましたが、荒川は両方を断って去って行きました。なにか気に入らないことがあったようです。

荒川の才気は人並み外れています。彼の親族、知人には、政財界にわたる実力者が揃っていました。彼にもう少し世渡りの意欲があれば、明治史に名を残す成果を挙げたに違いありません。そんなこと気にしないのが、荒川の真骨頂なのでしょう。

荒川は、工部大学校卒業後直ちに 3 年間の英国留学を命ぜられました。当時紡織業の世界的中心だったグラスゴーに滞在し、近辺の工場を限無くまわって、最新の紡織機械やその操作方法を習得して帰国しました。それから 7 年間、農商務省技師として全国の紡織会社をまわり、技術や経営指導を通じて紡織産業の強化に専念

しました。厳しい指導で、畏敬される存在でした。

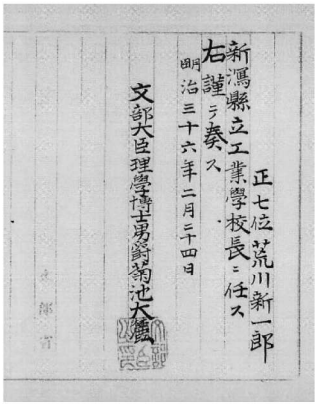
そんな実力者が、33 歳で官を辞し民間に下りました。工部大学校卒業生は、官費で学んだ代償として 7 年間公務に就く義務があります。その 7 年が過ぎたからさっさと辞めた。農商務省の組織変更に反対し上司と一緒に辞表を叩きつけた。2 説ありますが、後者の方が荒川っぽい感じがします。

官の時代は、当時の公務員名簿などで荒川の消息を追うのは容易でした。しかし民に下ると、情報が一気に消えてしまいます。群れを嫌う荒川にも、生涯敬愛した郷里の先輩品川弥次郎子爵がいました。靖国神社脇の九段坂公園に大きな銅像が立っています。国会図書館に残された品川書簡集の中に、荒川の手紙を 8 通見付けました。先に紹介した京都織物の話は、官を辞した翌年のできごとですが、その手紙の中から渋沢との関わりを見付けました。

官から離れた荒川が、13 年のブランクのあと文部省の依頼で教育の仕事を引き受けたのは驚きです。何か断り難い事情があって、村松という辺鄙な城下町にできる工業学校の校長を引き受けたと推察します。地元産業の染織を目玉にすることもあって、荒川の専門知識がうずき出し、理想の学校を作ろうと意気込んだことでしょう。

でき上がった学校は、校舎も実習工場もメリハリのある洋風建築で、英国輸入の新鋭紡織、染織機械を備えた見事なものでした。荒川が思い通りの注文を付けたに違いありません。現存するのは右の校門のみですが、二本の正柱はイギリス積み、副柱はフランス積みという特異な煉瓦造りで、職人の気紛れでできたとは思えません。荒川の意志が注ぎ込まれています。荒川は主としてイギリスの紡織から学びましたが、装飾織物が主体だった京都織物で、フランスの紡織技術を活用しました。日本の紡織業の発展を助けたイギリスとフランス、その両国に対する感謝と敬意を校門に込めようと思ったに違いありません。

県立工業学校校長は、高等官の中でも奏任官に属します。任命手続きは、先ず文部大臣が総理大臣に任用を上申します。総理大臣はそれを承けて任命し、天皇にその旨を上奏します。国立公文書館に、その 3 通の辞令が残されていますが、下に文部大臣の上申書と総理大臣の上奏書を転載します。


正七位荒川新一郎
新潟縣立工業學校長ニ任ス
右謹テ奏ス
明治三十六年二月二十四日
文部大臣理學博士男爵菊池大麓

正七位荒川新一郎任命ノ件
右謹テ奏ス
明治三十六年二月二十七日
内閣總理大臣伯爵桂太郎

上奏書は、天皇御璽の朱印が押された荘厳なもので、見るだけで身が引き締まる思いがします。現在の校長先生は、県教育委員会の発令で国璽とは無縁になってしまいました。

荒川が在任中、どのように過ごしたかについては、断片的な記録しか残っていません。県庁や中央との対応などで、多忙な日々を過ごしたことでしょう。たった 2 年で二代目校長の 内山久太郎（山口高等商業から転任）に交代しました。文部省から休職の辞令を受け、すぐ農商務省の発令で花筵検査所の所長に就任しています。古巣の農商務省が、新しく始める事業の責任者として、荒川に白羽の矢を立てたのでしょう。

当時アメリカに大量輸出されていた花柄の莚に粗悪品が混入し、花筵全体の評価を落としかねない状況でした。そこで、神戸に新しい検査所を設置して国が直接監督に乗り出しました。花筵は い草 で編んだ織物です。荒川の専門には違いありませんが、荒川は強い違和感に悩んだようです。就任 2 年後に提出された辞職願の中に、「宿痾のため近来益々神経衰弱仕り職務に堪え難し」と述べてあり、志とは遠い仕事に苛立ちの日々を送ったのでしょう。明治 40 年以来荒川は再び官に戻ることはありませんでした。

わが国初の民営洋式紡績会社、鹿島紡績所を創立した鹿島萬平の孫娘と結婚して破局、再婚の妻子とも別れて、晩年は阪神沿線今津で部屋借りして自炊生活を送りました。昭和 5 年 3 月、桜の訪れを前に 73 年の孤高な生涯を閉じ、山口市郊外にある父祖の眠る墓所に帰りました。死に臨んでいかに生涯を振り返ったか。おそらく昂然として悔いるところはなかったでしょう。

— 終 —

大先輩の活躍　(株)キンセイ産業 社長 金子正元（S33E）

副支部長　原 勝英(S46M)

同窓会本部事務局より東京支部に『(株) キンセイ産業　金子社長から多大なる寄付をいただきました』との連絡がありました。大先輩の活躍を同窓会会員に知らせたいとの意見があり、東京支部だよりに掲載することを役員会で決定しました。私が担当になり 1 月 12 日、(株) キンセイ産業を訪問いたしました。尚、私自身金子社長と面識がなく、(株) サンエンス・イノベーション　桑原社長（S41E）に段取りをお願いしたところ、同行までしていただきました。桑原社長、誠に有り難うございました。

当日、最初に驚いたことは、事務所で仕事をされていた全社員が直立不動で出迎えてくれたことです。これは、金子社長が社員教育をいかに重要視しているかの表れだと思いました。案内された応接室も素晴らしく目を見張るばかりでした。

金子社長の経歴は、昭和 14 年新潟県見附市生まれ。昭和 33 年長岡工業高校電気科を卒業後、高崎の照明器具製作会社に就職。昭和 42 年　28 歳で焼却装置の販売をする（有）金正産業を設立。昭和 46 年（株）キンセイ産業に社名を変更。今年で創立 55 年を迎えるとのこと。

会社としては、高崎市矢中町で本社・本社工場を設立、営業開始。自然式焼却炉の開発、特許取得。GB 型乾溜ガス化焼却装置の開発、特許を世界 15 カ国で取得。昨年、12 年前に購入した 16,000 坪の土地に 55 周年事業の一環として、高崎市宮原町に新しい本社・本社工場が完成、10 月より業務を開始したとのこと。その中でも、平成 10 年『日本産業機械工業会より優秀環境装置』で表彰、平成 15 年『文部科学大臣より産業廃棄物乾溜ガス化焼却装置の開発』で表彰、他に 8 件表彰されておられます。素晴らしい功績だと思いました。

平成 27 年秋の叙勲証書

また、企業人としてだけではなく、公人として『群馬県公安委員会委員長』『高崎商工会議所副会頭』『群馬県中小企業団体中央会会長』『一般社団法人群馬県発明協会会長』等々歴任され地元に大変貢献され、平成 27 年秋の叙勲で旭日双光章を授与されました。

最後に金子社長の人生の岐路は、『長岡工業高校時代の 6 代盛田英治校長の教え』を今でも肝に銘じておられるとのこと。会社の社是として『感謝を忘れない人。信念を持っている人。協力を惜しまない人』の 3 つを掲げておられました。帰りに金子社長より社内全体を案内していただき、『将来を踏まえて会社の設計を行った』と話されていました。

貴重な時間をいただき誠に有り難うございました。(株) キンセイ産業の益々のご繁栄と金子社長のご多幸をお祈り申し上げます。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

我が大先輩　田原 吉郎（S20C）

副支部長　原 勝英(S46M)

田原吉郎大先輩についてご報告させていただきます。お話をする前にプロフィールを。昭和 2 年生まれ。学徒動員で名古屋岡本工業（飛行機脚製造）へ勤労奉仕。長岡工業高校化学科を昭和 20 年卒業。前澤工業(株)社長。前澤育英財団常務理事等歴任。平成 13 年に藍綬褒章を受章。

私が田原大先輩をお見受けしたのは、長工同窓会の受付を担当していた頃で、30 数年前になると思います。第一印象はダンディーな方に見えました。同窓会の出席は、私の手元の資料によりますと、平成 16 年から平成 30 年までの間、1 回も欠席されておられません。それ以前の資料はありませんので不明です。最近はご高齢と言うことで令和元年は欠席されておられます。大変残念な思いです。

寄贈された演壇

実際にお話をしたのは今から 15 年くらい前の第 1 回ゴルフコンペからだと記憶しております。ゴルフで驚いたことは、80 歳を超えてから同じ組で回ったときでした。田原大先輩より『原君、私は目がよく見えないので、ボールの場所を確認してほしい』との依頼があり、緊張して回りました。私のゴルフは『右や左の旦那様』状態。駆け回りながらも、田原大先輩のボールの場所を教えました。私のゴルフはさておいて、80 歳とは見えない素晴らしいゴルフをされスコアも良く、私は足元にも及ばなかった記憶があります。

また、東京新潟県人会、越後長岡ふるさと会などにも参加され、いろんなお話をさせていただきました。

最後に、『母校の生徒のためにと言うことで令和 3 年に多額の寄付をされました』母校としては何が必要か検討した結果、演壇の購入を決定されたとのことでした。

我が母校の大先輩に対して感謝の念を禁じ得ません。有り難う御座いました。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*

速私の方から色々おたずねしたところ、お医者さんとのことでした。私も長岡の出で長岡工業高校の卒業だと名乗りましたら、お医者さんが私も長岡工業昭和 17 年機械科卒ですと話されたので、工業卒でお医者さんとは驚きました。話しが弾み、酒を酌み交わし当時の話になり学校の寮にいたこと、夜チャンソバを食べに行ったことなど懐かしく話されました。その後も北や南に酒を楽しみましたが、お亡くなりになったと聞き残念でした。ご冥福をお祈り申し上げます。

大阪の建設省に 2 年先輩の真島一男さんが部長で着任されたのを知りお訪ねしてご指導いただきました。真島さんはその後参議院議員になり政治家として活躍されましたが、志し半ばでお亡くなりになり残念でした。広島、名古屋と転勤して昭和 58 年東京に戻って来ました。会社が品川区にありその縁で本間隆君（昭和 41 年機械科卒）と出会い本間君は品川区会議員として活躍されていました。私も何かと応援しました。

さて、東京で同窓会があることを知り入会しました。その頃は各科ごとに分かれていたので、私は染織会に入会しました。染織会の会長が同級の林堅二君でした。機械が井口正一さん、電気が中野緑栄さん、化学が渡辺さん、後に野村清弘さん、電子が磯部輝雄さん、それぞれ活躍されていました。その後林君は家庭の事情で退任され、後釜にと長橋久美夫と元井忠夫君の二人から銀座で熱心に口説かれたのと先輩の推薦もあり染織会の会長に就任しました。先輩には星野周助さん（昭和 6 年卒）伊比博さん（昭和 15 年卒）、高橋新平さん（昭和 18 年卒）各先輩に熱心なご指導をいただきました。特に星野周助さんには公私ともに大変お世話になりました。その後各会の会長さんと会議を重ねる中で、東京支部の統一の話が出て各会長の賛同のもとで東京支部一体化が実現しました。

支部長に電気の中野緑栄さんが就任し中野さんのもとで多くの役員が選任され、その活躍で支部発展の基礎となりました。後に中野さんが退任され、各役員の推薦を受け東京支部長の大役を担うことになりました。私の力不足を電気の樋口昭さん、化学の星野弘明さんに補佐していただき、また多くの役員の力添えで、支部総会の運営から各種の行事が催されました。山の会、散歩、マラソン、ゴルフ、歌の練習等々、歌の練習後の食事会が楽しいものでした。赤と白の大きなビンのワインでの乾杯で毎回楽しい集いでした。食事の後でのカラオケがすごい盛り上がりでした。各行事の役員の団結は素晴らしいものでした。多くの役員の支えで支部長の大役を延べ 8 年も無事全うすることができたのは、各役員の力添えがあってのことと感謝しています。

次に私の思い出の中に若波会との出会いがあります。最初に上野池之端文化センターでの総会の時に一人の女性が「水泳部の方居ますか」と言われて、私が水泳部でしたので応対しました。その場では踊りの披露をさせてほしいとのことでしたので、お願いして会を盛り上げていただき大変好評でした。その女性が青沼さんでして、私との不思議な御縁があり若波会との付き合いが始まりました。本間繁富会長さんのご好意により東京支部との友好関係が芽生えました。毎年支部総会には佐渡おけさ、相川音頭等の躍りで盛り上げていただいています。また我々の仲間に若波会の踊りの練習時に手取り足取り教えていただき、おかげで支部総会にて輪踊りで楽しむことができました。練習の後に有志での食事会があり酒を酌み交わし楽しい時間を過ごさせてもらいました。現在も交友関係が続いていることに感謝申し上げます。

さて、私事ですが、平成 30 年に私が自転車で走行中に自動車に跳ねられ骨折や打撲で 1 か月の入院する事故に遭いました。退院するときには歩くこともできずリハビリを続け、杖を使って歩いています。次に東京から次男のいる大阪に転居しましたが次男が病気で亡くなり、仕方なく長男の居る岡山に令和 2 年 11 月に引っ越して来ました。知人もいない所で寂しい思いをしています。

水泳についてですが、新潟県マスターズ水泳大会が、先輩の志賀さん等の努力で日本マスターズ水泳協会から正式に公認されて、第 1 回大会が長岡で開催され我が長工水泳部 OB 会の王水会も参加。志賀勲（平泳ぎ）、並木（自由形）、五百川（背泳ぎ）、目黒（バタフライ）、折田（平泳ぎ）西（バタフライ）6 名で参加。リレー 2 種目で 1 位、個人では多く 1 位を獲得、その後の大会でも優秀な成績を収めています。

最後に、多くの方のご厚意で長工大賞の栄誉に浴し皆様に深く感謝申し上げます。

＜写真：2005 年 10 月 26 日撮影＞

新潟県マスターズ水泳大会　長工水泳部 OB 会／王水会で参加

並木 政治　金メダル　2 個 獲得

○ 個人　50m自由形　大会新記録

○ 団体 メドレーリレー（自由形で出場）

◇*◆*◇*◆*◇*◆*

随想

顧問　樋口 昭(S29E)

東京支部だより 20 号発刊、お祝い申し上げます。

20 号記念に相応しく、多彩、充実したものであり、関係各位の労を犒います。

東京支部の活動も活性化いたし、以前東京支部の運営に携わった者として喜びであります。

－「継続は力成」－　真に格言の通り

コロナ危機となって 2 年過ぎとなりますが、先ずはコロナを収束させる、感染防止に努めることです。

本年はウィズコロナで「新しい生活様式」を模索する状態が続くものと思う。終息後の社会は急速に大改革の期となるでしょう。日本の大きな改革を思うに、第一回「幕末－明治維新」第二回は「大東亜戦争の敗戦」そして第三回は「今期」である。(いずれも改革の年経は 77 年である)

改革は「価値観」が大きく変わることである。価値観が変わると言うことは、これまで信じて来た「美意識」「倫理観」が変わることである。これは容易なことではない、然しこの変化に対応できなければ生き残れない。

第三回、今期の改革はグローバル化であり、我が国だけでは対応ができない。情報通信、防衛、エネルギー等広範囲であるが、その基本は世界人類共通の課題である、温暖化に伴う気候変動である。その影響は氷河の融解、永久凍土に閉じ込められたウイルスの流出、海水面の上昇、積雪、融雪水の減少、自然保水能力の低下、ゲリラ豪雨に依る激甚災害の発生等々甚大なものである。

その防止に、「気候変動枠組条約」COP-26 会議で、温室効果ガス排出の多い石炭火力発電の削減、廃止に同意しない国が多い。経済的理由と言い、人間の愚かさを感じる。日本、米国等は 2050 年にカーボンニュートラルを宣した。国民よ、心せよ！

COP-27（本年、於エジプト）ではすべての国の同意、実施を願う。脱炭素時代と成り、新エネルギーの開発、原子力発電も回帰され、電力の国際貿易の時代が来ると思う。

77 歳以下の人は第二回改革を経験して無いが、改革は世の中が大転換し、過去と経験を否定するものであり、特に今期は地球レベルであり容易では無い。　－「豊かな日本」から「楽しい日本」を目指して欲しい－

時代が変われど、尊い日本伝統文化、道徳、武士道の厳守、伝承を望む。

愚老は第三回改革を見届けず、「弥陀ケ岳」に登ります。

社会構造が革新となるも、同窓会の目的「会員の親睦、交流、絆」「母校の教育方針の支援」等、120 年の伝統ある長工精神「質実剛健」を継承・堅持し、多様化する価値観を受容し、各種・各界と交流、親交を広め見聞を深め「共通の価値観の創造」が同窓会活動の活性化であると思います。

世代が繋がる
心が結ばれる
同窓の絆は永遠

を理念に長工精神を継承し、伝承し東京支部の発展を願い、母校、本部の益々のご隆盛をご祈念申し上げます。

長工健司此処に在り
国の栄をいざ図れ

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

同窓会運営の一部業務の内製化後 12 年を経て

事務局長　成田 修(S44M)

支部だよりが平成 15 年(2002 年)の創刊以来、今年で 20 年となり第 20 号の発行を迎えたことは記念すべきことであり、各号の発行にご尽力されてきた歴代の広報記録担当各位に心から敬意を表する次第です。

一方、東京支部の同窓会運営の一部業務についても、2009 年まで外部業者に委託して会員名簿の維持管理、年会費の納入依頼と納入状況の把握、総会開催案内資料の送付等を行っておりましたが、翌 2010 年度より前記の委託業務をすべて引き取って内製化に切り換えました。理由は外部委託費の納入会費に占めるウェイトが大きく、支部の財政を大きく圧迫するようになったことによります。委託していた業務に関連したパソコンスキル等を有する先輩役員のリードのもとに内製化に切り換えることができたのは幸いのことでした。

結果として前記業務に掛かる費用は外部委託時経費の概ね6割程度で済むようになりました。それでもその後の会費納入会員の減少により、止むを得ず2018年にはそれまでの1000円／年の会費を2000円／年にさせていただいたことはご承知のとおりです。本年3月末で内製化後12年となりますが、最近において難しい問題も出て来ております。それは支部会員の高齢化に伴い支部役員も高齢化して来ており、役員を引き受けていただける方が減っていることに加えて各業務に関連したパソコンスキルを有した役員が減りつつあることです。これからは更にこの傾向が顕著になってくるものと思いますが、会員各位の更なるご理解とご支援をいただき、伝統ある長工同窓会・東京支部を盛り上げていただきたいと感じている次第です。

会員だより

我が自治会行事の紹介

理事長　永井 利矢(S44M)

記念20号にふさわしい題材を探しましたが、持ち合わせていないため、役員を気軽に引き受けて苦労した、我が自治会の行事を紹介します。

私が住む町は「菅田（すげた）東町」といって、横浜市神奈川区の北西の端に位置し、町内に農業専用地域（主に「きゃべつ畑」）があるなど、横浜駅の近郊では珍しい農業主体の広く大きな町内ですが、この地域の別名を“横浜のチベット”などといわれています。

自治会の世帯数は1,200世帯強、役員数は会長以下29名おり、毎月、自治会館において、町内地区別代表者80名弱が参加する常会を開催しています。私はこの東町の役員として「町内自治会の子供会」と「神奈川区の青少年指導員」を担当し、今年で7年目になりました。

自治会の年間定例行事は20回以上あって、このほとんどに役員として参加しますが、ビッグ行事は1月のマラソン大会、3月の町内ふれあい祭り、7月の盆踊り大会、9月の敬老会と地元神社祭り子供神輿の運営、10月の大運動会です。これら行事は、まず、企画会議により行事内容を決め、その後、実行会議により担当者や応援者を決めて行事を実行し、そして反省会により次回に申し送ります。当初、横浜では田舎の自治会が、このような整然とした手続きで行事を遂行することに驚きでしたが、いまでは、これが今日の継続につながっているものと思っています。

写真は、私が担当した「地元神社祭り子供神輿」の一枚であり、各休憩所には、子供達が興味を持つよう休憩所ごとに異なる飲物とお菓子を用意します。

このほかに、青少年指導員関連の行事(「蛍の観察」など)もあって、自治会とは異なる刺激を得ていますが、残念ながら、令和2年と3年の行事は、コロナ禍によりすべて中止になりました。皆様の自治会ではどのような行事がなされているのでしょうか。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

大東亜戦争開戦の日

松永 巌(S20M)

それは、私が新潟県立長岡工業学校（現長岡工業高校）の二年生の時であった。

実家から学校の在る長岡市までは、最寄りの見附駅から汽車通学するのであるが、駅まで４粁、徒歩で一時間、自転車で二十分位掛かる。入学の時三十四円で買って貰った新品の自転車で楽しく通って居た。

然し、郷里越後は、その頃雪が多く、冬になると道路は車（当時稀少なもの）、自転車は使えず、やむを得ず長岡市内か、見附駅近くに下宿する他は無かった。

開戦の年、昭和十六年十二月は、雪は未だ積もる程ではなかったが、駅から程近い、顔馴染みの自転車店の、離れの二階に下宿して居た。毎朝、見附駅七時十二分発の列車（当時はSL）に乗るため、朝食は六時と決めてあった。店の人は皆早起きで、私と一緒に朝食を取って居た。

開戦の日の十二月八日の朝も、顔を洗って皆が食事をする部屋に入って座った時、丁度朝六時のラジオ・ニ

ュースが始まった。

ＮＨＫアナウンサーの「只今から臨時ニュースを申し上げます」の声に続いて、凛とした軍人らしい声で、「大本営陸海軍報道部十二月八日午前六時発表、帝国陸海軍は、本八日未明、西太平洋上に於いて米国及び英国軍と戦闘状態に入れり」と実にハッキリ聞こえた。

この放送を丁度六時に正確に聞くことができたのは、偶然とは言え、強力な印象であり、今でも聞こえて居る様な気がする。下宿では店主夫婦、長男夫婦が居たが一瞬誰も言葉を発しなかった。暫くして店主の奥さんが「戦争が始まったんだね」と口を切って、雑談に入ったが、私は部屋に戻って制服に着替え七時に出発した。矢張り何時もより緊張した気持ちで、靴紐を特にきつく結んだ。

駅までの数分間に色々なことを考えた。軍隊に行かねばならぬ事、立派な技術者になって飛行機を作る事など、色々考えて駅に着いた。既に友達が数人来て居て、列車の来るまでの間、戦争の話で持ち切りであった。

学校に着いたら何時もと同じように朝礼が始まった。何時も長目の森山校長の訓示は、この日特に長かったが皆緊張した面持ちで聞きいって居た。内容は当然の事乍ら、戦意高揚に関するものであった。

当時、国民一同戦争になるかも知れないと言う危機感はあったので「倒々来たか」と言う感じであった。

大本営発表は戦果の度に、陸軍、海軍に分かれ、後「大本営発表」と一本になり、あの軍人の、男性にしては甲高い声は、屡々耳にしたが、矢張り、開戦当日の「大本営陸海軍報道部」発表以上に感ずるものは無かった。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

白銀は招く「スキーの思い出」

近藤(旧姓 高橋)宗一 (S31E)

（1）白馬山麓の細野・佐野坂スキー学校へ受講（1957年12月～58年1月）

私も入社2年目でしたが若月先輩から1級を取得したいと相談され三浦敬三先生が「クリスチャニアの探求」を出版され、目に留った為、朋文堂主催の「山と高原スキースクール」へ参加した。年末は細野スキー場で受講、31日白馬東急山荘へゴンドラが開通し朝から長蛇となり諦めた。私たちはスキーを肩に担ぎゴンドラの下道を1時間かけて登った。

第3ケルンを目指し挑戦したがケルンの下尾根に到着したら正午頃となり天候が急変して雪が降り始めた。昼食も持参していなく新雪の中を転倒しながら10分位で山麓へ滑り降りた。細野部落は雨模様となる。元日から5日は佐野坂でスキースクールを受講。

校長の三浦敬三先生は2日目に上級を2クラスに選別し受け持って戴く。オーストリアスキー術で外向傾姿勢の斜滑降から実技指導を受けた。食後に全員のスキーのテールベンドの直し方を伝授され、結果、午後からの実技もダレが無くなり良好でした。

佐野坂部落も雪の恵みを以ってスキー客の受け入れに民宿も総力を挙げて歓待してくれた。夜の食膳には地酒の銚子が付き疲れも和んだ。ゲレンデは未だリフトも整備中でロープ搭でした。

講習最後の5日は技術検定があり、三浦先生は私を前走に指名され、若月先輩の1級検定合格に花を添えた。

（2）スキー大恩師　故三浦敬三儀の葬儀へ参列（2006年1月5日逝去　享年　101才）

喪主の三浦雄一郎様（七五）へ弔意文を届けた。訃報は紙上で拝見し、斎場は中野区宝仙寺にてスキー仲間の導師真言宗大谷派長岡市連光寺住職により1月11日葬送され回葬した。2月12日77日忌の法要挨拶状を受けた。いまは大きな「夢100年」のシュプールを天国の山々に描き続けていることと書き留めていた。

＊戒名「雪獄院釋敬寿」（合掌）

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

「夢、のまた夢」

山川 昭男(S33E)

これから50年後；2072年や100年後；2122年の世の中はどうなっているか、寝床での妄想は果てしなく「夢、のまた夢」を楽しみつつ何時の間にか寝付いている。最近の妄想を字数が限られる中でその一端を記してみたい。

○情報化社会から超⇒超々スマート社会へ。Big Data ・AI技術の指数関数的進展、多種多様な万能ロボット

開発、衛星通信主体で通信技術の 6G⇒7G⇒8G 化と相まってあらゆる分野が IoT スマート化。学校教育は 18 歳まで多彩なコース選択で無償化、AI 端末での自宅学習、登校は交流対話・体育・音楽・クラブ活動が主体。企業経営は超グローバル化、多民族・多言語人材活用で生存競争の激化を乗り切り何とか Japan as No.？

〇地球規模での温暖化対策、2050 年カーボンニュートラル+1.5°C 目標は 2072 年には何とか達成し、酷暑と海洋国水没は免れる。日本列島異常台風抑止は原子力船 10 数隻による台風発生海面の膨大な熱エネルギー回収で台風小型化、暴風・豪雨の河川洪水水没は昔話となる。アフリカ・サウジアラビア等の砂漠地帯は太陽光発電で海水の淡水化で徐々に緑地化し農産物生産で食糧危機脱却、生活安定化による人口増加現象に歯止めがかかる。CO_2排出の石炭火力は全廃、車は EV 車から水素燃料自動運転車。空の産業革命でドローンタクシーやドローンマイカーが出現。

〇エネルギーの主体は電気としても、主力電源は洋上風力、潮流発電で日本海・太平洋沿岸を 500kV/1000kV 基幹直流送電網が周回し、主要陸揚げ地点で 275kV/500kV 交流基幹網と接続。火力は水素タービンで負荷調整・定態安定度分担、従来タイプの原子力はすべて廃炉で分散型低放射能小型モジュール炉に置換。住宅は全戸に太陽光モジュール・超長寿命のダイヤモンド電池併置で自給自足、宅内は直流配線・すべて直流家電で電気料金から開放される。

〇医療の高度化は目覚ましく、iPS 細胞・DNA 医療技術の進展で臓器再生、ガンの完全克服。この成果で平均寿命は 90 歳さらには 100 歳以上となり、人口減少にも歯止めがかかり、80 歳までの就労が一般化する。

〇自由・資本主義社会と専制・社会主義社会の対立はどう決着がつくか。中国の一帯一路、台湾問題は？習近平没後は？　ロシア、北朝鮮の自由・資本主義への変遷はあるか？　米国は移民増加の体力低下で世界リーダーの維持は？

〇一方、自然災害の大地震・火山爆発による地盤沈下・津波被害は、12 月政府公表で日本海溝・千島海溝地震想定の死者最悪 19.9 万人、南海トラフ地震 32.3 万人・首都直下地震 2.3 万人とある。昨年秋の TV ドラマ“日本沈没”の 1.2 億人の海外脱出劇を想い起し、更に宇宙開発競争が過熱し核弾頭ミサイルボタンが押されたら、この世は地獄の様相となり、この夢、のまた夢も全く無に帰してしまう。孫・曾孫時代の平安をただ祈るばかりである。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

山を離れて・・・・・「今、山に誓って」

川澄 昴(S38E)

2001 年退職を機会に東京の生活を終えて帰郷、新潟で入会した豊栄山岳会は飯豊連峰厳冬期の縦走実績で知られた山岳会でした。そんな山仲間と残雪期に登った「クサイグラ尾根」は私の登山歴のなかでも忘れられない厳しい体験でした。ここに山行記の一部を紹介します。

飯豊連峰の烏帽子岳への夏ルートはクサイグラ尾根が最短ルートである、痩せ尾根の頂部はで両側が切り立ち、低木の枝や根で足場が限られる危険なルートで近年登る人が少なく登山道は消滅しかかっている。

今回は 4 月下旬、残雪の雪渓直登ルートを詰めてクサイグラ尾根の上部を目指す。新潟から車で 2 時間、川入の駐車場に着く、荒川支流の渓谷に沿った道はデブリで埋まっていて雪崩の危険もあるので倉手山を迂回してようやく「温身平（ぬくみだいら）」に到着する。「温身平」は飯豊連峰登山の中心基地で、北アルプスでいえば上高地から涸沢への横尾に当たる。ここで腹ごしらえしてからアイゼンとザックを締め直し出発する。白馬大雪渓や剣沢の雪渓、石転び沢の壮大な規模には比べようもないが斜度の厳しさはこれまでの体験の中で一番だ。雪渓登攀は短時間で高度を上げられるのと強い陽射しでも涼風が心地よい。パーティーの先頭は若手のエース、二番手に最高齢のベテラン、経験の浅い私が三番手、後ろには厳冬期の飯豊連峰縦走の実績豊かな二人が続く。雪渓は北股岳に詰める石転び部沢から分かれて左の沢に進む、私のザックは 12 kg、他のメンバーは 25 kgを超えている、前後の間隔を一定に保つと自然に歩調が揃う！ザッ！ザッツ！ザッツ！足音が静寂な谷間に心地よく響く。

次第に傾斜を増す雪面に先行者の踏み跡にアイゼンを蹴り込んで一歩一歩踏み上がる、踏みあとを正確に蹴り込まないとバランスを崩してスリップする、バランスはあくまでも体幹、筋力で保つように感覚を集中する。40 分ほど経過するころから、息が荒くなる！モモイタが張る！谷間は仲間の荒い息音と足音だけ。一息つきたいところだが、この急斜面では歩みを止めてしまうとバランスを崩すので厳禁だ！ただひたすら蹴り込み踏み上げを繰り返す、何も考えられない！・・・フット右上方向に山小屋の土台らしき丸太組が目に入る！あと少し！と思い視線を向ける・・・しかしそこには雪の斜面があるだけ、幻覚であった！気を取り直してステップ

を刻む。気を許して滑落したら後続者を巻き込んで二重遭難になる、私の技術では制動はまず不可能だ。そんな恐怖と緊張の登攀がつづく。山小屋の土台の幻覚がまた現れる！・・・傾斜が垂直に近くなったところに岩が眼前に。今度は幻覚でない！岩を掴んでにじりあがるが安心できない！岩一つ反対側は急峻な谷底に切れ込んでいた。体勢を立て直す暇なくピッケルをザックに挟み込んで三点支持登攀、アイゼンは履いたままなので岩で滑る、低木の根っ子が絡む、枝は顔面を鞭打つ、ザックが枝に引っかかる。夏場の稜線登攀の常である、そんな稜線の一か所に僅かな幅の窪んだ岩棚、ここが幕営地、岩棚に張り付くようにテントを張る。狭いテントでザックや靴は外に押し出して 5 人はシュラフに潜り込んで横になる。今日の行程は無事終了。明日の好天を願って寝むりに就いた。

楽しかった山、苦しかった山行で俺はあの時死んでいたのではなかったか！と思うことがある。それは「足元の雪庇が崩落したあの時！夢中で掴んだ木の根」そんなことが何度かある。幸い今生きているのは何か大きな運命の神に救われた！幸運にも神に生かされていて今がある。

山から離れた今、幸運の神に感謝し社会に恩返しすると山に誓っている。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

同窓会の思い出

元理事　佐藤 満(S46E)

同窓会東京支部との出会いは、平成 2 年 4 月に 14 年 6 か月の転勤から帰京してからとなります。福岡が最後の赴任地でしたが、その当時（平成元年）バブル崩壊が九州では既に始まっていました。地方勤務で会社倒産となれば大変と、東京への転勤を願い出てようやく翌 3 年 4 月に虎ノ門勤務で問題解決。

長期間地方に居ましたので、戻った時は浦島太郎状態でした。高速道路の路線が増えていて未来都市のようでした。配属先では最年少でしたのでお友達はいません。社外のお友達はどうかと思い卒業名簿を調べたら、江東区に現在副支部長の原勝英氏の名前がありました。幼馴染が原氏と同じクラスに居ましたので面識はあり、比較的早い時期に会いました。これが最初の出会いでした。

当時は同窓会東京支部があることも、また支部総会が毎年開催されていることも知りませんでした。平成の何年から出席したか記憶がはっきりしませんが、染色科の先輩が支部長をされていたと記憶しています。

当時は科ごとの分科会形式でしたので、その後の懇親会で同期卒の仲間を探し、近況を話し合うのを楽しみにしていました。しかしその当時の同期生は少なかったように思います。(現在は原副支部長の尽力で同期生役員がかなり増えています。) また立食形式でしたので、どこのテーブルに行けばよいか分からず会話もあまり無かった記憶があります。しかし分科会での記憶は鮮明にあります。当時の電気科の纏め役は中野緑栄様と前支部長の樋口昭様でした。そのお二人の超元気なお姿に驚きを感じました。当時は電気科の参加者が多く、電気科が支部を引っ張って行こうという強い意思表示でした。それ以来同窓会に出席していますが、池之端文化センターから現在の会場に移ってから、総会担当役員の原氏に総会の手伝いを要請され、それ以降微力ですが協力して来ました。いつからか役員に、いつからか総会の司会をするようになっていました。総会の司会は二度仰せつかりましたが、総会中盤までアルコールが飲めないのが残念でした。しかし、懇親会後の諸先輩同窓生との二次会が、また楽しく色々な話をした覚えがあります。

大変有意義な体験をさせていただき感謝です。

平成 30 年 8 月以降私用により役員を辞退させていただいています。コロナ禍が収束し落着きを取り戻したら、東京支部の発展に微力ですが再度ご協力をさせていただきます。感謝。

支部報告

総会・懇親会

総会・懇親会担当統括理事　宮田 隆(S32E)

令和 3 年の総会・懇親会は、3 月の役員会で、当時の新型コロナウイルス感染状況を考えると中止せざるを得ないとのことで、前年の中止に引き続き実施断念となりました。東京オリンピックもなんとか乗り切った後、デルタ株主体の感染者拡大の第 5 波が発生しました。第 5 波の感染者数の低減を受けて、10 月に令和 4 年の総会・懇親会の実施可能性について会場に状況を問い合わせた結果では、卓当たり人数は若干緩和されて 8 名まで、黙食、会話はマスク着用、演芸などはステージ上のみ可能、輪踊りは不可というものでした。感触では、さらに条件が緩和されて 7 月は実施可能かと期待したところです。ところが年が明けて今度はオミクロン株による第 6 波が出現、まん延防止措置下でも各地でクラスター感染が発生し、第 5 波を大幅に超える感染状況になりました。市中至る所で感染の可能性のある中、当面、3 回目のワクチン接種と飲み薬の早期出現を期待して、感染防止に配慮しながら愈々ウィズコロナの生活が始まってしまいました。ここに来てまた、オミクロン株の亜種 BA.2 なるものが現れています。

総会・懇親会は折角お集まりいただく会員の皆様が楽しくお過ごしいただく為に、会食や、密で会話が行えることが重要です。また、安心して会場にお出でいただける必要があります。どのようにしてこれらが実現できるか、我々、会場そして、行政などそれぞれの立場で最大限の努力が求められます。コロナ禍を乗り越え、再び皆様にお目にかかれる日を楽しみにしております。

本年 7 月 2 日に予定した総会・懇親会は新型コロナウイルス感染状況が収まらない中、会員各位の安心に配慮して 4 月 9 日の役員会で中止と決定しました。3 年連続の中止で誠に残念ですがご容赦ください。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

支部会計報告

会計担当統括理事　永見 健治(S48E)

会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。平素より同窓会の運営にご理解いただきまして誠にありがとうございます。お陰様で令和 3 年度の収入はほぼ予算通りとなりました。皆様に感謝申し上げます。支出においては新型コロナの影響で、支部活動や対外交流も自粛したため、対予算を大幅に下回りました。繰越金が増えることになりますが、来年度以降の活動に備える所存です。今後とも支部活動の原資となる年会費のご継続をよろしくお願いいたします。

令和 3 年度寄付者一覧を掲載します。(敬称略)

No.	会員番号	氏 名	金額	No.	会員番号	氏 名	金額	No.	会員番号	氏 名	金額
1	S28M023A	土田 進	2,000	10	S35E0210	杉本 久栄	1,000	19	S42M025D	白井 等	1,000
2	S28W0290	並木 政治	3,000	11	S36E0140	川村 吾一	3,000	20	S44M038C	山崎 正一	2,000
3	S29E0260	土田 弘明	1,000	12	S36E0370	星 富夫	3,000	21	S46e0240	野﨑 敬策	8,000
4	S30E0300	藤田 智三郎	1,000	13	S37e0280	高橋 大二	2,000	22	S46E025B	竹津 弘幸	1,000
5	S31E0240	近藤 宗一	1,000	14	S37M011B	中村 秀和	3,000	23	S46M020C	塩入 晴夫	1,000
6	S32E0370	宮田 隆	3,000	15	S38W0010	相澤 功	1,000	24	S46M027A	原 勝英	8,000
7	S33E0390	山川 昭男	3,000	16	S39M031A	堀 清市	2,000	25	S46M032A	松本 彰	1,000
8	S34C0330	伏黒 三夫	3,000	17	S40C0130	加藤 智	3,000	26	S46MD14D	児玉 幸一	1,000
9	S34M008A	大渕 平佑	2,000	18	S41W0290	頓所 信男	1,000	27	S48E026B	永見 健治	1,000
								合 計			62,000

訃報

名簿担当統括理事　星 富夫(S36E)

次の方々がご逝去されたとの連絡がありました。謹んでご冥福をお祈りします。

卒業年	科別	会員 No.	お名前	ご逝去　年月日	備　考
昭和 25	機械	S25M0010	青木 誠作 様	令和 2 年 3 月 18 日	
昭和 42	電気	S42E	佐藤 正太郎 様	令和 3 年 7 月 14 日	
昭和 14	機械	S14M0310	中野 國武 様	令和 3 年 1 月 22 日	
昭和 21	機械	S21M026S	田中 昭 様	令和 2 年 3 月 30 日	
昭和 32	機械	S32M004A	石坂 実 様	令和 3 年 10 月 15 日	
昭和 36	機械	S36M015B	小比田 十三 様	令和 3 年 4 月 16 日	
昭和 31	電気	S31E0250	高橋 弘 様	令和 3 年 2 月 6 日	
昭和 38	機械	S38M034B	平賀 勝衛 様	令和 2 年 5 月 15 日	

昭和 37	電気	S37E0270	田中 稔 様	令和元年 12 月 21 日	
昭和 24	電気	S24E003N	高田 吉太郎 様	令和 3 年 4 月 22 日	
昭和 41	機械	S41M044A	山田 金栄 様	令和 2 年 7 月 12 日	
昭和 20	電気	S20E029S	藤井 優 様	令和元年 11 月 3 日	
昭和 26	機械	S26M0150	小林 八郎 様	平成 28 年	
昭和 28	電気	S28E0390	山田 和夫 様	令和 3 年 10 月 6 日	
昭和 46	電子	S46e0390	柳 雄二 様	令和 4 年 1 月 22 日	
昭和 28	電気	S28E	水内 徹 様	令和 4 年 2 月 13 日	
昭和 21	機械	S21M2480	樋口 善八郎 様	令和 3 年 10 月 25 日	
昭和 31	機械	S31M005B	小川 敏夫 様	令和 4 年 3 月	

◇*◆*◇*◆*◇*◆*